

聲明書

14. 4. 16
東京労働組合

▲運動の分岐點

吾等が東京西部合同労働組合は、多年城北合同労働組合の中堅として、城北合同の政
策を支持し來つたものであるが、吾等は今や、労働運動上の二つの相異なる指導精神
のその一つを選ばなければならぬ分岐點に起つて居る。
然して其の一つは現實の爲めに協調主義に墮して大衆を指導せんとする精神で
ある、他の一つは、激烈なる現實の闘争の中にあつて、奈何に大衆を組織、結合し、
奮闘に大衆をして階級闘争の線上に引きあげべきかと云ふ、精神である、然らば吾等
はその何れを選ぶべきか、云ふまでもなく後者でなければならぬ。

▲總同盟幹部の墮落

吾等が之を信じ、他もまた之を許した吾が日本労働總同盟の日本に於ける労働運動
の指導的地位は、今や無慘にも蹂躪せられんとして居る。
總同盟が十三年度大會に於て、戰闘的組合の立場から、勇敢に大衆を指導すべく分
立せる組合及び未組織労働者の一大團結を畫策し、改良政策をも積極的に利用し以つ
て運動の大衆化を宣言した、

然るに何ぞ!! 多年幹部の地位に押れ官僚的精神に墮したる彼等は、無産階級解放
の根本精神を抛棄して、改良主義の奴隸と化した、彼等は支配階級の強壓的攻勢と、
資本主義末期に於ける失業者の激増に戰慄し資本家を結托して『共済施設の充實に
努め』以つて資本家階級の従僕たらんとして居るではないか。

▲總同盟幹部の陰謀

斯くて、これ等幹部の墮落を糾弾し、吾が總同盟が、多年鍛錬し來たりたる戰闘的
精神を保持する爲めに、彼等官僚幹部と、公然、政策を以つて戦はんとする精銳分子
は彼等幹部の障害物となつた、そこで彼等は政府及び資本家階級と戦ふ代りに、支配
階級と共同して、日本の労働運動を擾亂し、労働組合内部の新興勢力を驅逐せんとす
陰謀を繰らしてゐる、それが露骨に表はれたのは關東同盟の内紛に始まり、遂に彼の
五組合の除名となり、更に十四年度大會直後何等の理内なくして、關東關西に於ける
有力なる闘士數名をも除名せんとして居るのである。

▲城北合同の崩壞

吾等は之等の事實に依つて、總同盟幹部の惡辣なる陰謀を知つた、吾等は斯くの如
き組合運動の裏切りの官僚幹部を排撃すべく、去る四月五日の夜開かれたる、城北合
同労働組合の理事會に、總同盟内部廓清運動に参加すべき事を提議した。然るに、城
北合同の内部にあつて常に關東同盟の官僚幹部と相通じ、その毒案に浸潤したる處の
城北合同の一部幹部は、我等のこの正當なる要求の前に戰慄して、無法にも多數理事
の名を籍りて遂に十二對七の差を以つて該案は否決せられた、斯くて、彼等城北合
同の幹部は全く、總同盟の墮落幹部の走狗となり終るの醜態を演じ更に組合長以下の
各本部長は盡く辭職する等の暴舉をなして、同組合は全く、自らを殺した。

▲東京西部合同労働組合の創立と關東地方評議會加盟

斯くて吾等城北合同労働組合員二百名中の三分の二は驟然として、何等吾々組合員
の意志の反映せられざる、城北合同労働組合に属する事の不當なる事を思ひ、労働運
動の正義を守る爲めに城北合同より脱退し、茲に東京西部合同労働組合を創立し、更
に、吾等と主義、主張を同じふする、同志、關東地方評議會に加盟するに至つたもの
である。

▲吾等の決心

吾等は以上に依つて吾等が斯くせねばならなくなつた理内の一斑を述べた、吾等は
非常なる決心と、勇敢なる行爲を以つて、今后全國的同志と糾合して、總同盟をして
正しさのもの、手に奪還し眞個日本の労働總同盟を建設すべく猛進することを、茲に聲
明し、更に全國の吾等の同志諸君に、之を訴ふるものである。

大正十四年四月八日

日本労働總同盟

關東地方評議會

東京西部合同労働組合